

2023年4月7日(金)

老球の細道724号

松井遵一郎先生、生涯現役！

会津バスケットボール協会 室井 富仁

子どもの頃からケガ以外は病気ひとつしたことなく青春時代まで生きて来た。流れが変わったのは40歳台に心臓に異状をきたしてからである。健康診断などで常に「要精検」の判定が身体のあちこちで出るようになり、それから妙に健康を意識するようになった。

退職の頃からなぜか血圧が高くなり、時折授業をしている最中にめまいをするようになった。父も母も血圧が高く、私も40歳代頃の心臓病のこともあり心配になったので、当時会津バスケットボール協会会長であった坂下厚生病院の松井先生に診察をお願いした。それから10数年定期的に診察をしてもらい、主治医として大変お世話になった。

診察を受け始めた頃は、大会の最中の宿舎で急に血圧が200くらいに上がって、松井先生に電話をかけて助けを求めた。そんなことが何度もあったが、その度に先生はやさしく、丁寧はどうすれば良いかを支持してくれた。先生の「大丈夫だ!」「俺もだ!」の一言が私の精神的な安定剤になり、パニックになりかけた気持ちを何度も救ってくれた。

そんな松井先生が今年度の県の人事異動で坂下厚生病院から県立南会津総合病院の院長に赴任することになった。1昨年坂下厚生病院の院長を務めながら、病院の新築移転という大仕事を終えた。それから院長を退任して「晴耕雨読 時々医者」の生活を送っていたのに、今度は別の病院院長として仕事をするという。びっくりした。失礼ながら74歳という高齢の身で、まだまだ現役並み、いやそれ以上に働こうとする超人的な意欲はどこから来るのだろうか。新聞で先生の異動記事を目にした時、WBC以上の驚嘆とリスペクトで胸一杯だった。

松井先生との出会いは大学時代である。先生が福島医大のバスケット部、私が福島大学のバスケット部。定期戦を組んで試合をしたり、医大の体育館を借りて合同練習をしたりしていた。そのなかで先生はコーチの役割もしており、福島大学の体育館にも単身で顔を出し練習を見学していた。エネルギッシュな姿が今でも記憶に残る。あれから50年が過ぎる。

先生は医師としてだけではなくバスケットボール界においても大きな足跡を残してくれた。若くして相双地区協会会長を務め低迷していた相双地区を多いに盛り上げた。今でも相双地区で先生を慕うコーチは多い。その後会津バスケットボール協会会長も長く務めた。大会、懇親会には必ず顔を出し貴重なコメントを発していただいた。私は先生のスピーチをいつも楽しみにしていた。トステインクリニックのあいさつではいつも英語でスピーチをした。

また、私の退職後のサポートも忘れなかった。福島医大バスケットクリニックを依頼してくれたり、ひと月に1回第1月曜日の夜7時から9時まで行っていた「コーチングスクール」には坂下から会津若松まで3年間受講してくれた。また、協会主催の「トップアスリート講習会」においても指導スタッフとして短パン半そで子ども達に大きな声で激を飛ばしていた姿が懐かしい。先生の前では「年ですから・・・」は絶対禁句であった。

上達段階には「6つの“い”」がある。①上手い②速い③強い④賢い⑤室い⑥松い(理論)。